

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【自然】身近な自然を見つけよう

〈テーマの設定理由〉

日々の保育活動の中で、こどもたちが散歩先で出会う生き物や植物に興味を示している。季節の移り変わりを五感で感じとり、自然の面白さを造形や描画など様々な方法で表現したり、生き物の飼育や植物の栽培に挑戦してほしいと考え、テーマを設定した。

2 活動スケジュール

4月～6月 公園で生き物を見つけてみよう、雨の日散歩、自然をテーマにした制作活動（1・2歳児）
4月～6月 公園で生き物を見つけてみよう、雨の日散歩、カエルの飼育、カブトムシの幼虫の飼育、夏野菜の苗植え、自然をテーマにした制作活動（3・4・5歳児）
7月～9月 ミニトマトの栽培、自然をテーマにした制作活動、水に親しむ、氷遊び（1・2歳児）
7月～9月 昆虫探し、見つけた生き物MAPの作成、夏野菜の栽培と調理、カブトムシの幼虫の観察、自然をテーマにした制作活動、氷遊び、木工体験（3・4・5歳児）
10月～12月 秋散歩、自然をテーマにした制作活動（0・1・2歳児）
10月～12月 秋散歩、昆虫探し、カマキリの卵の観察、自然をテーマにした制作活動、木工体験（3・4・5歳児）
1月～3月 冬散歩、自然をテーマにした制作活動、木に触れる（0・1・2歳児）
1月～3月 冬散歩、散歩MAPの作成、自然をテーマにした制作活動、足立区生物園、木工体験（3・4・5歳児）

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

虫取り網、スコップ、昆虫の飼育用品、プランターや苗などの栽培セット、折紙、画用紙、画材、木材、木材店との調整

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

1年を通して、いろいろな公園に散歩に出かけた。こどもたちのつぶやきや反応を観察し、各歳児の発達段階や一人ひとりの興味関心に合わせて、次の活動を組み立てていった。1・2歳児は、積極的に戸外活動を行い、季節の変化を全身で楽しんだ。3・4・5歳児は特に昆虫探しに熱中する姿が見られた。こどもたちと夏野菜の苗の購入から一緒に行い、日々の水やりと観察、収穫、調理（食育）と、一連の経験を積むことができた。2月には、幼児クラス合同で足立区生物園に行き、さまざまな生き物をじっくりと観察し、興味関心が一層深まった。特に5歳児を中心に、地域の木材店の協力のもと複数回にわたり木工体験を行い、木に触れる経験を積んだ。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

0・1・2歳児：「花が咲いているね」「きれいだね」「きもちいいね」など、保育者がゆったりとした語りかけを大事にして、こどもと一緒に自然を楽しんだ。特に1・2歳児は、雨の日散歩、秋散歩でのどんぐりや落ち葉拾い、雪に触れる冬散歩など、季節ごとに様々なバリエーションの散歩を楽しんだ。

3・4・5歳児：詳しい保護者にもご協力いただき、園内でカエルの飼育にチャレンジした。餌やりや観察日記などに取り組んだ他、散歩先で見つけた昆虫等を描画で表現し、幼児クラスでは生き物MAPを制作した。捕まえた昆虫の飼育方法を図鑑などで調べるなど、こどもたち自らが知識と経験を往還する様子が見られた。一人ひとりが、自分の興味関心に合わせて活動に取り組み、友だちとの関わりによって、さらに活動の幅が広がった。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

保育園から歩いて行ける範囲にもたくさんの自然がある。特に1・2歳児では、戸外活動を通して、空気や気温の変化、雨や雪にふれ、季節の移り変わりを肌で感じることを大事にした。自然の不思議さや面白さを感じながら、自分の好きなものを見つけられるよう、こどもたちが時間をかけてじっくりと遊びこめるよう、援助していくことが重要だと感じた。3・4・5歳児は、好きな散歩先を自分たちで選べるようにして、こどもたちが各々の興味関心に合わせて自由に探索できるよう心がけた。1年の締めくくりとして生物園に行ったことはとても良い経験となった。特に異年齢保育において、充実した探求活動のためには十分な職員体制の確保が必要であると感じる。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなのみらいをつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【自然】水・光

〈テーマの設定理由〉

個々の発達段階を踏まえ、主に0歳児クラスを中心に、「自然」のテーマの中で、特に「水」「光」をサブテーマに置き、探究活動を進めることとした。

2 活動スケジュール

6－9月 保育室内やベランダでの水遊び 色水や泡、氷など様々な「水」を楽しむ
7－9月 布団圧縮袋、寒天、水風船などを利用して、さまざまな水の感触を味わう
9－10月 サイリウム、懐中電灯などを活用した「ひかり遊び」
10－11月 水の生き物（魚）をテーマにした遊び※活動3
11月 0歳児園外活動「水の科学館」
12月 0歳児親子遠足「アートアクアリウム銀座」

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

布団圧縮袋、寒天、サイリウム、懐中電灯等

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

水遊びが大好きなこどもたちの様子を踏まえて、布団圧縮袋や寒天を利用して、水を使ったさまざまな感触遊びを行った他、園外活動として「水の科学館」へ出かけた。また、水遊びでペットボトルを用いた際に、絵の具をいれたり色紙をいれたりすることで、水の中でペットボトルの水がキラキラすることから「ペットボトルを光らせてみよう」とひかり遊びに発展した。ひかり遊びとして、保育室内でサイリウムや懐中電灯光を使った遊びを行った。日々の保育の様子を伝えることも目的として、銀座三越内の「アートアクアリウム銀座」にて0歳児クラスの親子遠足を行った。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「ひんやり」「柔らかい」「ドロドロ」等の感触を感じ、水に触れる事を楽しめるように工夫した。こどもたちは初めての感触に驚き、最初は怖がる様子もあったが、保育者の声かけやお友だちの様子から少しずつ興味を示し、次第に夢中になる姿があった。好きな遊びを通して、こどもどうしでのやりとりも増えた。「ペットボトルを光らせたらどうなるかな？」とペットボトルにサイリウムをいれてみたのが、ひかり遊びへ繋がった。ひかり遊びでは、懐中電灯、ライトボックス、サイリウムなどを活用した。部屋を暗くすると、いつもと違う様子に不思議そうな表情を見せ、ペットボトルの下からライトを当てる場面では、水が光る様子をじっと見つめていた。懐中電灯の光や影を真剣に目で追ったり、指差しをして保育者に知らせたり、サイリウムを自分で曲げて光らせることを喜んだり、光を発見することを楽しんだ。別の日には、光と水を組み合わせ、ナイトプール風、音と光を組み合わせたライブごっこ、活動内容も工夫した。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

こどもの好きな水遊びを発展させ、さまざまな感触に触れることができた。また、水遊びからひかり遊びに繋がったことで、こどもたちが光を発見し、面白さを感じることもできた。水×光×水の生き物を組み合わせた活動として、0歳児の保護者遠足を企画し、遠足に向けて、日々の保育の中での遊びの連続性を意識した。日頃の保育の様子を保護者のみなさんに伝える良い機会にもなったように思う。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東雲2-1-22 キャッスルビル東雲 2・3階
施設名	みんなの未来をつくる保育園東雲

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

【自然】水の生き物

〈テーマの設定理由〉

図鑑や絵本を通して、子どもたちが強く興味をもった「水の生き物」。実際に体感するために水族館への遠足、水の生き物をテーマにした制作活動、魚を使った食育等を計画した。

2 活動スケジュール

4－6月 5歳児園外活動(潮干狩り)、0・1・2歳児及び3歳児園外活動(葛西臨海水族園)→暑さ指数の関係で10月に変更、水の生き物をテーマにした制作
7－9月 水の生き物をテーマにした制作、海水を見比べる、貝殻やサンゴの観察、図鑑や絵本を用いた探求
10－12月 0・1・2歳児及び3歳児園外活動(葛西臨海水族園)、水の生き物をテーマにした制作、マグロの探求(有識者に話を聞く、ツナサンド作り)
1－3月 0・1・2歳児園外活動(葛西臨海水族園)、5歳児園外活動(品川アクアパーク)、水の生き物をテーマにした制作

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

図鑑、絵本、水の生き物をモチーフにしたカードゲームやパズル、机、椅子、パーテーション、ピクチャーレール等(探求コーナーとして環境設定をするため)、折紙、画用紙、粘土、画材

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

図鑑・絵本・カードゲームやパズルなどの知育教材を活用して「水の生き物」についての知識を深めた。ダイオウイカやジンベイザメを実寸大で制作してみることで、大きさを体感することができた。葛西臨海水族園では特にこどもたちが「マグロ」について強い興味関心を示した。有識者にマグロの生態について教えてもらい、普段の食事でもよく食べていることを知り、実際に調理し食べてみる経験をした。3歳児担任が探究活動に関する研修を受講し、探求コーナーの設定など幼児クラス的环境構成にも力を入れた。

〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

日々の活動の中で「水の生き物」について調べたり、会話をする人が多い。0・1・2歳児クラスでは、散歩の行き先の一つとして近くのスーパーマーケットで魚売り場を見たり、魚がモチーフの絵本の読み聞かせをすることで、園外活動への期待感を高めるような工夫をした。3・4・5歳児クラスでは、特に3歳児クラスを中心に、探究活動に取り組んだ。幼児クラスの制作活動(ダイオウイカやマグロなど)では、図鑑の写真を見ながら、色や形をできるだけ似せようと工夫しながら取り組んでいた。完成した作品を保育室内に飾ることで、保護者との会話のきっかけにもなっているようだった。普段のブロック遊びや食育(練切づくり)の際に、「水の生き物」をモチーフにしている児もいた。保護者の方にもご協力いただき、夏休みに帰省先や旅行先から海水やサンゴのかけら、河川で見つけた生き物の写真などを持ち寄ってもらった。こどもたちと観察をしたり海水の違いについて考えた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

図鑑や絵本で知った知識を、制作活動や園外活動を通して体感することで、一層こどもたちの関心が高まった。さらに園外活動で興味をもった「マグロ」について探求することで、保育活動の幅が広がった。普段の保育の中にテーマに即した活動内容を取り入れる工夫や、室内の環境設定の工夫など、保育者自身も試行錯誤しながら充実した活動が行えるよう心がけた。